

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成26年度

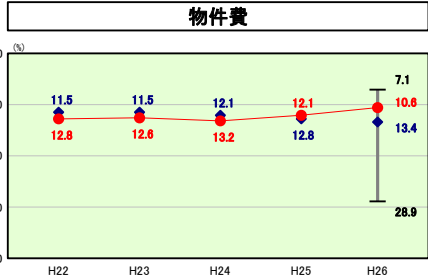
福岡県大任町

経常収支比率の分析

人口	5,438	人(H27.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	5,431	人(H27.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	14.26	km ²	実質公債費比率	12.2	%
歳入総額	4,994,474	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,541,667	千円	市町村類型	H22 II-2 H23 II-2 H24 II-2	
実質収支	444,857	千円	(年度毎)	H25 II-2 H26 II-2	
標準財政規模	2,249,770	千円			

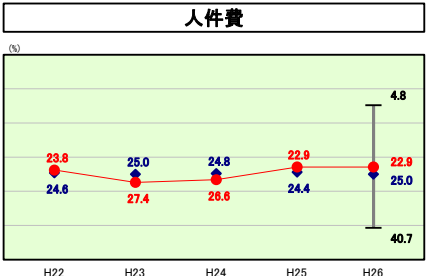


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



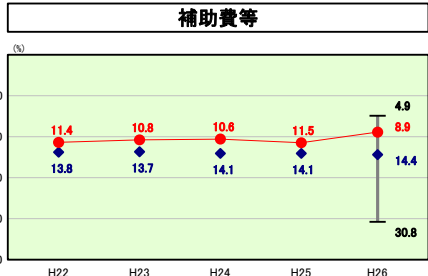
物件費の分析欄

物件費においては、類似団体に近い水準にあるため、今後も現状維持に努める。



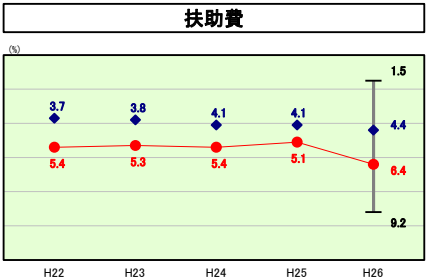
人件費の分析欄

人件費は、類似団体と比較すると低い水準にある。要因としては、退職者に対して新規採用を2割程度抑制しているうえに、ラスパイレズ指数も類似団体より2.2ポイント低くなっている。



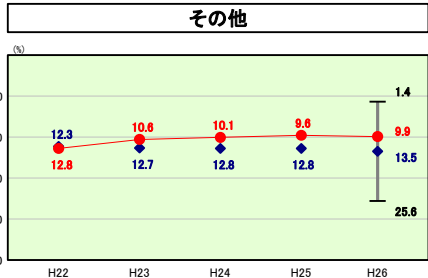
補助費等の分析欄

補助費に係る比率は、類似団体と比較して低い水準にある。主に、本町が加入している一部事務組合等への負担金であり、今後も現状維持を図る。



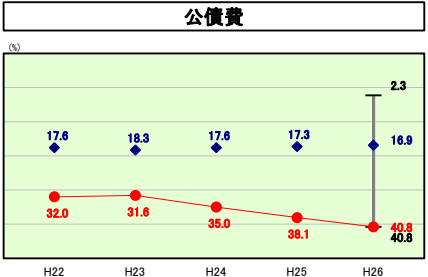
扶助費の分析欄

扶助費は、類似団体と比較して、2ポイント上回っている。主な要因としては、町内に幼稚園がないため、子どもを保育園に預ける傾向にあり、児童福祉費の保育所措置費が高いことがあげられる。また、高齢化率が30%を超えている現状から、老人福祉費が高いことがあげられる。今後も継続して、介護予防事業等を積極的に行う。



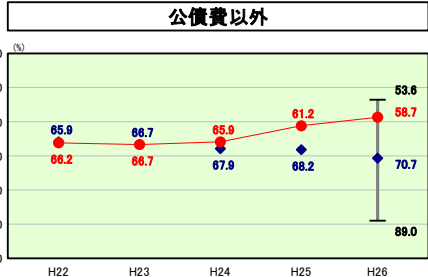
その他の分析欄

その他の経費としては、繰出金が主なものとしてあげられるが、中でも、国民健康保険事業特別会計の財政状況の悪化に伴い、繰出金が多額になっているのが現状である。国民健康保険事業特別会計においては、医療費抑制事業を継続して実施し、さらに、国民健康保険料の適正化を図ることにより、一般会計の負担を減らしていくよう努める。



公債費の分析欄

近年、大型の整備事業が集中し、地方債現在高や元利償還金が増え、類似団体平均を2倍以上上回っている。公債費のピークは平成30年度となると見込まれており、それまでは上昇することが予想されるが、繰上償還や償還元金を超えない範囲での新規発行に努めるなど、公債費率の抑制に努める。



公債費以外の分析欄

平成26年度の人口1人当たりの普通建設事業費決算額をみると、189.123円と類似団体と比較して高い水準にある。これは、過疎対策の一環として、特産品開発施設や道路改良事業などを行ったためである。今後は、元利償還金の増加によりさらに厳しい財政運営が求められる。